

ねらい

5歳児: 小学校の教室に慣れ自分の思いを出す。より活動を楽しむために自分なりに工夫する。

1年生: 秋の自然に親しみ、自分が考えたものを幼稚園の友達と一緒に楽しむためにつくり方や遊びのルールを工夫することができるようにする。

本時のポイント

(事前研修の内容)

- ・1校1園の交流(「あきみつけ」で会う・幼稚園で会う・招待状を出す等)で回を重ねる。
- ・「あきみつけ」で偶然を装って出会い、幼小とも「あきみつけ」をしていることの意識づけをする。(サプライズは意欲を生む)
- ・幼稚園児がドングリで遊ぶ様子を1年生が見に行く。(「やってみたい」を生み出すきっかけ)
- ・園児と1年生で計画書を一緒につくる。(対話を生み出す工夫)
- ・幼稚園で遊んだ物を当日の授業に持っていく。(お客さんにならず互恵性を意識した工夫)

実践内容

グループに分かれて、かざり、ドングリ人形、的あて、楽器、ピタゴラ、迷路をつくって遊ぶ。

<当日の子どもの姿より>

- ・選択肢が多い環境は自由度が高く、ワクワクした気持ちになり、意欲的に動き出す姿が多かった。
- ・遊びのチームによって子どもの姿が様々であった。互いの意見を聞き合いながら進めようとするグループもあれば、個々が自分のしたいことをしているグループもあった。
- ・つくることだけではなく“試す”ということも大切な遊び・学びである。繰り返して試す中で気付いていることがあった。
- ・5歳児は目的意識をもって遊ぶというよりは、今やりたいことをやりたい!という姿が多く見られていた。



先生の話を真剣に聞く
5歳児と1年生。ともに学ぶ



広々空間
豊富な材料
自分で選ぶ
自己決定
主体性



押さえて
おくれ!



交流活動後の話し合い<単なる“交流”から合同授業へ!>

- ・環境を5歳児担任と1年生担任が協働してつくっていった。幼稚園の紙の整理棚やソフト積み木などを持ち込むなど、双方の環境をミックスしてよりよいものに改善できた。
- ・互いの子どもの姿を今までの交流を通して知っている。また、互いの教師の思いや子どもに対する願いも理解し合える仲になっているからこそできた授業だった。

交流を振り返って

- ・幼稚園で遊んでいた物を持ち込んだことについて、その環境の是非を今日の子どもの姿から考えていく。
→幼稚園の子どもは“自分たちの遊び”と思っているが、1年生にとっては自分の遊びになっていなかった。
- ・1校1園、少人数で両教師共に子どものことがよくわかっているからこそできる取組だった。
- ・もっと“秋”を意識させるような教師の関わりや発問の仕方もあったのではないかな。